

琵琶湖・淀川流域対策に係る研究会（第6回） 議事概要

- | | |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 開催日時： | 令和4年3月3日(木) 10:00～12:30 |
| 2 開催形式： | web 会議 |
| 3 出席者： | 多々納裕一委員（座長）、石田裕子委員（副座長）、角哲也委員、津野洋委員、中村正久委員 |
| 4 議 事： | (1) 座長・副座長の選出について
(2) リスクファイナンス連絡会議の結果報告と今後の取組の方向性について
(3) 水源保全連絡会議の結果報告と今後の取組の方向性について
(4) その他
プラスチック対策検討会の取組状況について |

(1) 座長・副座長の選出について

座長に多々納裕一委員、副座長に石田裕子委員が選出された。

(2) リスクファイナンス連絡会議の結果報告と今後の取組の方向性について

- ・琵琶湖・淀川流域以外にも同じような懸案を抱えている地域もあることから、研究会の議論の経緯やこれまでの検討結果などを広く情報発信してほしい。
- ・相互扶助・共助の考え方等の普及に力を入れてほしい。
- ・現時点ではこの制度は、社会的に浸透するのが難しいのであれば、小規模でもよいので、実装を想定した演習をする等、大学の研究機関やNPO等と連携し、社会実装にむけて、何ができるか研究してはどうか。
- ・任意加入の約定保険で支援できる範囲をもう少し明らかにし、保険では対応できない部分も含め、取りまとめることも重要である。
- ・連絡会議でまとめた制度案と部会から提案された制度案の違いや、保険が対象としている共助の位置づけを明らかにしたうえで広く発信した方がよい。

(3) 水源保全連絡会議の結果報告と今後の取組の方向性について

- ・部会の報告では有効水資源生産量の流域の分布はわかったが、琵琶湖の水位や淀川本川の取水量に影響する可能性があることは明らかになっていなかった。他の研究成果等を基に、府縣市の方々ともう少し意見交換をするのが良いのではないか。
- ・地球温暖化等の問題が水循環にどれくらい影響するのか、琵琶湖の水位の管理を変えるだけで対応できる範囲なのか、あるいは森林政策や農地政策にフィードバックさせないといけないことなのか感度分析をやっていくことは必要ではないか。
- ・上流の水源を守ることが、結果的には下流域の森林のない自治体のリスクを減らすことにも繋がっている。例えば、下流域の自治体の森林環境税のようなものを上流域の森林にも使えるような仕組み等を考えていくのがよいと思った。

(4) プラスチック対策検討会の取組状況について

- ・滋賀県や大阪府でも琵琶湖、大阪湾でのマイクロプラスチックの現状をある程度

把握しているし、研究をされている方もいるので、できるだけ連携した方がよい。淡水域でのマイクロプラスチック問題というのは世界的な情報も少ない。琵琶湖、大阪湾という非常に重要な地域を抱えている関西広域連合の取り組みなので、何らかの形で関連させていくことを考えたらよいのではないか。

- プラスチックを使い続ける限り、プラスチックが海に流出してしまうので、プラスチックを使用しないような動きをもっと進めていかなければいけない。プラスチックは環境に良くないということの普及啓発、環境教育が大事。
- プラスチックを使わなくてもコストが変わらない代替素材の開発にも力を入れていく必要がある。